

6節 マスチック塗材塗り

15.6.1

適用範囲

この節は、コンクリート面、押出成形セメント板面、モルタル面及びALCパネル面に、マスチック塗材を多孔質のハンドローラーを用いて塗る工法に適用する。

15.6.2

マスチック塗材塗り

(a) マスチック塗材塗りは、表15.6.1により、種別は、特記による。

表15.6.1 マスチック塗材塗り

工 程	種 別		塗 材 そ の 他	S K K 該 当 製 品	塗 付 け 量 (kg/m ²)
	A種	B種			
素地ごしらえ	○ (注)1		18.2.5及び18.2.6による。	————	—
1 下地押え	○	—	合成樹脂エマルジョンシーラー	エスケーマスチックシーラー★	0.12
	—	○	マスチックC用シーラー	エスケーマスチックC用シーラー★	0.12
2 塗材塗り	○	—	マスチック塗材A	エスケーマスチックA★	1.20
	—	○	マスチック塗材C	エスケーマスチックC★	1.80
3 仕上材塗り	—	○	つや有合成樹脂エマルジョン ペイント2回塗り	エスケーGPペイント★	0.20

(注) 1. 素地ごしらえの種別は、塗材その他の欄による。

2. 押出成形セメント板面の素地ごしらえは、表18.2.6コンクリート面及び押出成形セメント板面の素地ごしらえによるB種とする。

3. ★印はホルムアルデヒド放散等級：F☆☆☆☆表示製品。

(b) 仕上材塗りはつや有合成樹脂エマルジョンペイントとし、種類及び適用は特記による。

(c) マスチック塗材は、製造所において調合されたものとする。

(d) マスチック塗材は、施工に先立ちかくはん機を用いてかくはんする。

(e) 塗付けは、下地にくばり塗りを行ったのち、均し塗りを行い、次にローラー転圧によりパターン付けをして、一段塗りで仕上げる。

(f) 塗継ぎ幅は、800mm程度を標準として、塗継ぎ部が目立たないように、むらなく仕上げる。

(g) パターンの不ぞろいは、追掛塗をし、むら直しを行って調整する。